

## 課題の概要

- 課題名 「国際サステナブル科学リーダー育成システム」
  - 総括責任者名 「浅原 利正」
  - 機関名 「国立大学法人 広島大学」
- (実施予定期間： 平成22年度～平成26年度)

### 機関の現状

広島大学はその到達目標を「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」として掲げ、COEや21世紀COEに採択された課題を中心に、研究体制を重点的に整備してきた。その達成指標の一例として、学術論文の被引用数は国内13位(世界283位)、THE-QS世界大学ランキングでは国内13位(世界259位)など、高く評価されている。

若手研究者の育成では、全学的な取組として「特別研究員制度：H16-」を発足させ、毎年5名程度を雇用し、重点的に育成している。また、科学技術振興調整費による、「イノベーション創出若手人材研究人材養成：H21-25」「女性研究者支援モデル育成：H19-21」「新興分野人材養成プログラム：H15-19」など多くの実績を持つ。

人材養成システムに関しては、「任期制」「サバティカル制度」「年俸制」を採用し、さらに平成21年4月に人材育成推進室を設置し、全学レベルで研究者・職員の育成を組織的に進めている。

### 人材養成システム改革・若手研究者育成の構想

持続発展可能な社会を構築するのに必要な物質・材料科学、生命科学及び地球環境科学を包括した学際融合領域を対象とし、①各専門分野で深い研究知識・能力、②関連分野との知の交錯を可能にする柔軟な思考・能力、③持続発展可能な社会の構築に不可欠な国際センス、を持つ若手研究者を育成する。

公募は国際公募とし、選考審査に合格後「テニュアトラック講師」として「サステナブル・ディベロップメント実践研究センター」に専任教員として採用する。採用後「独立研究室」、「研究費支援」などを受けながら、応募時に計画した学際研究を行う。3年目に「中間評価」を行い、特に優れた評価を受けた教員は「テニュア審査」を経てテニュア教員として採用する。5年目に「最終評価」を行い、基準を満たすと「テニュア審査」を経てテニュア教員として採用する。

実施期間終了後も、引き続き「学際融合領域における教員の採用」にテニュアトラック制度を取り入れる。なお、今回の実施は自然科学系の学際融合領域であるが、種々の問題点を改善した後、人文社会系や医療系など他分野への展開を図る。

### ミッションステートメントの概要

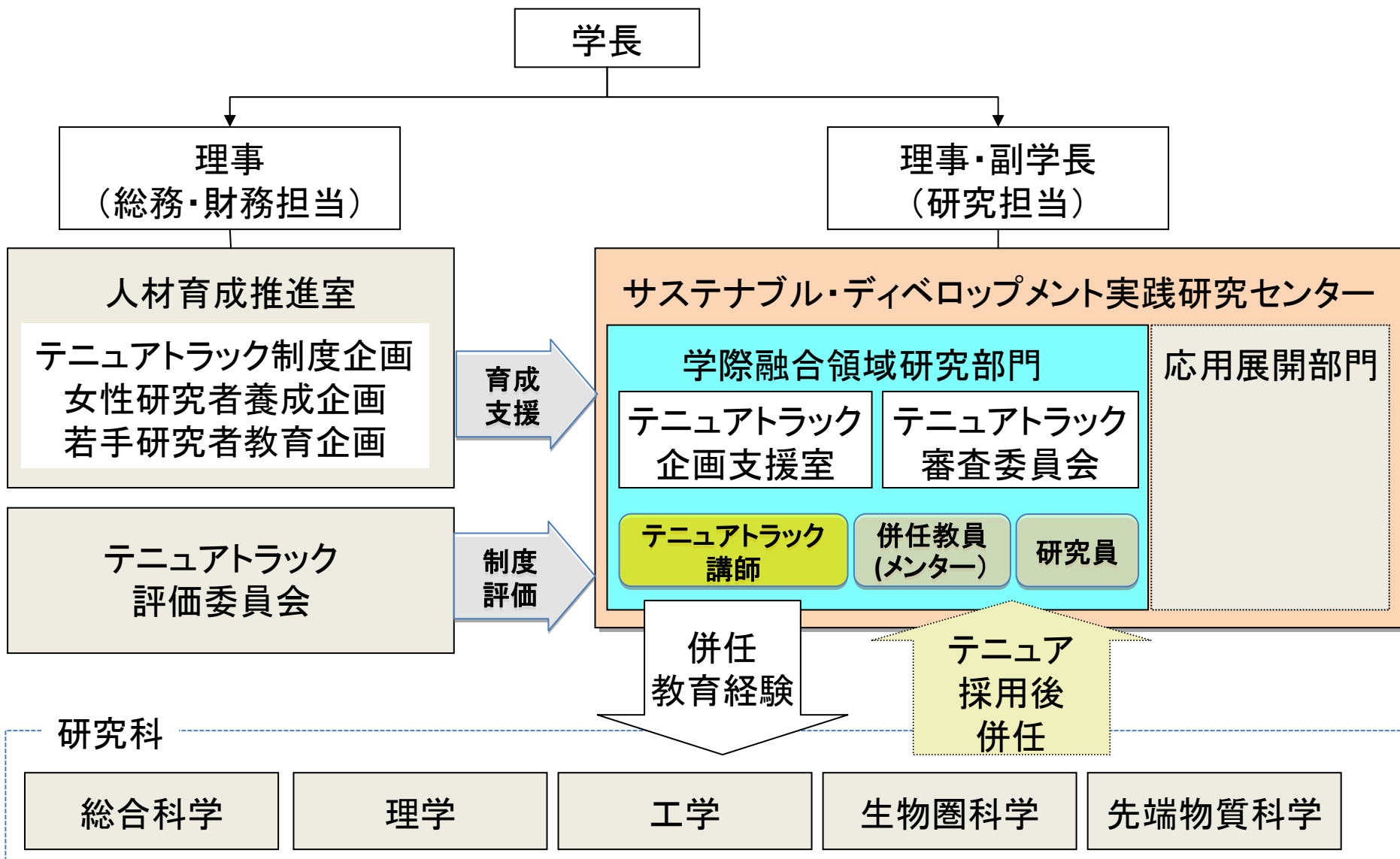
#### 3年目終了時

テニュアトラック教員2名に対して、「テニュアトラック審査委員会」による中間評価を実施する。評価は、研究業績(論文発表、学会・国際会議発表等)及び卓越性・自立性・協調性・国際性の観点からの教育研究活動実績に対して、書類審査とともに英語でのプレゼンテーションによる面接審査を行う。評価結果はテニュアトラック教員に示し、助言を行う。極めて評価が高い教員については「テニュア審査」へ推薦し、テニュア教員への採用を可能とする。また、システム改革の評価のために外部委員を含めた「テニュアトラック評価委員会」による制度の評価を実施し、制度改革、教員の選考方法、研究資金を含む支援体制、テニュア審査基準等の見直しを行う。

#### 実施期間終了時

「テニュアトラック審査委員会」による最終評価を実施する。評価基準を満たす者はテニュア審査(配属予定の研究科で実施)を経てテニュア(准教授又は教授)へ移行する。テニュアの所属は希望する研究科とする。テニュアポストは、テニュア移行最大数の範囲で用意する。人材養成システム改革全体の改善として、「テニュアトラック評価委員会」による評価を受ける。このプログラムを通して、学際融合領域における人材養成システム改革のモデルとしての確立を目指す。

# 実施体制



# 制度の概要

**テニュアトラック  
評価委員会**

- ・学内外の委員で組織
- ・テニュアトラック制度の評価

人的研究支援  
メンター・教員によるサポート  
ポストドクによる研究活動支援  
企画支援室によるサポート

サステナブル・  
ディベロップメント  
実践研究センター

テニュア審査

大学院研究科  
テニュア  
准教授・教授

最終評価

他機関  
へ

中間評価

指導助言  
業績評価

大学院教育

外部資金  
獲得支援

外部資金獲得

学長FD

学内外共同研究

独立研究室

物的研究支援  
研究スペースの提供  
研究費のサポート

センター推進支援体制

国際公募  
選考審査

テニュアトラック  
講師

テニュアトラック  
企画支援室

テニュアトラック  
審査委員会

- ・専任職員配置
- ・テニュアトラック制度に係る企画立案
- ・テニュアトラック講師へのサポート
- ・広報、普及啓発活動

- ・学内外の委員で組織
- ・テニュアトラック教員に係る採用審査、業績評価、中間評価、最終評価の実施

## ミッションステートメント

- 課題名 「国際サステナブル科学リーダー育成システム」
- 総括責任者名 「浅原 利正」
- 機関名 「国立大学法人 広島大学」  
(実施予定期間：平成22年度～平成26年度)

### (1) 人材養成システム改革構想の概要

これまでの人事制度は研究分野ごとに構築されている学部・研究科の中で行われており、学際融合領域における優秀な若手教員の採用は難しい面があった。本学で実施するテニュアトラック制度は、従来の学問領域で構成された学部・研究科等の部局の枠を超えた、学際融合領域における教育研究を推し進めるための人材育成システム改革である。

本人事システムは、これまでの部局の人事システムを否定するものではなく、新しい分野を切り開くための補完システムとして機能する。今回の実施は、自然科学系の学際融合領域を対象として行うが、「サステナブル・ディベロップメント実践研究センター」は自然科学系に限らず、人文社会系や医療系など、全ての学際融合領域を対象として設立するものであり、本システムを構築することにより全学利用が可能となる。

「サステナブル・ディベロップメント実践研究センター」に、外部委員を含めた「テニュアトラック審査委員会」を設置し、極めて優秀なテニュアトラック教員を、国内外の関係機関、関連研究分野主要学会誌、WEBサイトにより国際公募し、選考審査を行う。採用したテニュアトラック教員は、サステナブル・ディベロップメント実践研究センターに所属する。

テニュアトラック教員は研究科へ併任させ、研究科において教育の経験を積ませる。また、センターにおける自立的環境が孤立環境とならないようにするため、メンター教員(研究科からの併任)を配置し、研究上の指導ではなく環境面でのアドバイスや研究科の授業担当の連絡調整を行う。さらに、リーダーシップ能力を醸成するため、学長によるファカルティディベロップメント(FD)を実施するとともに、国際ワークショップの企画運営や外部資金獲得を支援する。

テニュアトラック制度での若手採用人数は、毎年2名を予定している。採用者に占める自機関出身者は30%以内、女性研究者20%、外国人研究者20%を目標として運用する。

テニュアトラック制度を含む人材育成システム改革の全学的推進は財務・総務担当理事の下に置かれている「人材育成推進室」が行い、その評価は外部委員を含むテニュアトラック評価委員会が行う。その評価結果を得て、学長のリーダーシップの下、全学的な人材育成システム改革に展開する。

### (2) 3年目終了時における具体的な目標

初年度採用テニュアトラック教員2名に対して、サステナブル・ディベロップメント実践研究センター内に設置した「テニュアトラック審査委員会」による中間評価を実施する。評価は、研究業績(論文発表、学会・国際会議発表等)及び卓越性・自立性・協調性・国際性の観点からの教育研究活動実績に対して、書類審査とともに英語でのプレゼンテーションによる面接審査により行う。評価結果はテニュアトラック教員に示し、テニュアへの

道に関して助言を行う。極めて評価が高い教員についてはテニユア審査（配属予定の研究科で実施）へ推薦し、テニユア教員（准教授又は教授）への採用を可能とする。

また、中間評価（3年度末）に先立ち、システム改革の評価のために「テニユアトラック評価委員会」を組織し、テニユアトラック制度の評価を実施する。その結果を受け、「人材育成推進室」はテニユアトラック制度改革を検討し、「テニユアトラック企画支援室」は教員の選考方法、研究資金を含む支援体制、テニユア審査基準等の見直しを行う。

### （3）実施期間終了時における具体的な目標

初年度採用テニユアトラック教員の教育研究活動状況について、「テニユアトラック審査委員会」により最終評価を実施する。評価基準を満たす者はテニユア審査（配属予定の研究科で実施）を経てテニユア（准教授又は教授）へ移行する。テニユアの所属は希望する研究科とする。テニユアポストは、テニユア移行最大数の範囲で用意し、広島大学の人事ポイント制における全学ポイントを充て、教授又は准教授相当分のポイントを一定期間配属研究科に付与する。

「テニユアトラック審査委員会」により高く評価されたものの基準に達せず、テニユアとしての採用に至らなかったテニユアトラック教員については、「テニユアトラック企画支援室」が「キャリアセンター」と協力して外部研究機関ポストへの斡旋を働きかけ、その間は大学の自己資金による雇用延長（最長1年）を行う。

「人材育成推進室」は「テニユアトラック評価委員会」による評価を受け、その結果を人材育成システム改革全体の改善にフィードバックする。

### （4）実施期間終了後の取組

「学際融合領域における教員の採用」に関しては、テニユアトラック制度を取り入れる。なお、今回の実施は自然科学系の学際融合領域であるが、実施中に顕在化した問題点を改善した後、人文社会系や医療系など他分野への展開を図る。その際に、テニユアトラック教員の選考方法、研究資金を含む支援体制、テニユア審査基準等、関係する研究分野の特殊性や教育の継続性等を考慮した「広島大学型の制度」となるよう、「人材育成推進室」を中心に継続的に見直しを行う。

### （5）期待される波及効果

国際的な研究環境のもとで自立した研究室を構築し、内外の研究グループと共同研究体制を築くことを可能とする本テニユアトラック制度は、若手人材育成システム改革だけでなく、学際融合領域研究の推進におけるひとつのモデルとなる。

その進捗状況については、できる限りの情報公開を図り、他の組織や研究機関をはじめ次世代の科学を担う大学院生・学部生への情報発信とする。